二〇二一年一一月二〇日

手放せることも恵みと木の葉髪　むべ

木喰仏まあるくまるく冬温し　うつぎ

秋声や寺苑の隅に十字墓　はく子

せせらぎの水面彩る渓紅葉　よし子

イヌワシの翔ちて伊吹嶺を統ぶる　凡士

照紅葉奇岩の谷を埋めけりや　よう子

防空壕もワインセラーも蔦紅葉　うつぎ

ラクビーの決勝宙を飛ぶトライ　凡士

乳母車犬が先導落葉道　むべ

寂聴の恋の勧めや帰り花　よう子

円虹を背にして帰る大漁旗　宏虎

半眼の木喰仏に窓小春　かかし

葛湯とく恙の母の笑顔かな　わかば

鴨来たるセコイヤ並木映る池　はく子

時雨きて走り渡るや沈下橋　素秀

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年一一月二一日